



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2022.2.21

熱戦が続いた冬季オリンピック

中国北京で行われた冬季オリンピックでは、連日熱戦が続いていました。観戦されていた方も多かったのではないのでしょうか。私も、毎日の中継を楽しみにしていました。この一戦のために、積み上げてきたであろう血のにじむような努力の先に繰り広げられる技や演技、パフォーマンスは、メダルに届こうとも、あるいは届かなくとも、見る者の心に強く響くものがあります。本命といわれた男子フュギュアスケートの羽生結弦選手の4位にも、金メダルを獲得したネーサン・チェン選手にも、表面に見えるもの以上の物語がにじみ出ているように思います。また、4年に1度という大舞台で勝つことの難しさを、改めて感じずにはられません。

今回の大会ではスキージャンプ混合団体のユニフォーム失格問題など、審判や運営側の不手際のような事象が散見されていたことは少し残念でした。そんな中で、8日に行われたスノーボード女子パラレル大回転に出場した、冬季五輪の日本女子最多6度目の出場を果たした竹内智香選手も、決勝トーナメント1回戦でコース中盤に転倒した際、相手のホフマイスター選手（ドイツ）を妨害したと判定され、途中棄権扱いとなりました。不可解判定ではありましたが直後のインタビューでは「これも五輪独特の力」と語っていたそうです。その2日後に自身のInstagramを更新して会場や選手村での笑顔ショットとともに、次のようにつぶっていたそうです。

「皆さまへ たくさんの応援、心からありがとうございました。今回のレースについて失格になった時点ではしっかりと受け入れていました。ただ、その後に通常ではありえませんが、他の国が私のために抗議をし、昨日今日と他国の選手やコーチに会えば会うほど同情の声をかけられ、こんな状態でレースを終えるのは初めての経験で、珍しく自分の中で消化するのに少し時間がかかっていました。自国の選手がスタートゲートに入っているにも関わらず、一日本人の私に時間と労力を割いてくださった他国の人たちの気持ちには心から感謝です。こんなところが五輪でありスポーツであり人の温かさを心から有り難く感じる瞬間です。北京五輪に入ってから本当に心の底から楽しむことができ、100%満足/完全燃焼してようやく、競技の世界から100%退き次のステージに行けると確信していました。ただ最後の最後に1%の不完全燃焼を残してくれた五輪の神様からのメッセージは何を意味しているのだろう。どんな経験も見角や捉え方を変えるだけで新しい世界を知れるチャンスでもあると思っています。これからも五輪やスポーツの価値としっかりと向き合い、世の中に必要とされる人でありオリンピック人でありたい。これは今もこれからも変わる事のない最大の目標です。」と記しています。

私は、竹内選手の人となりについて知識不足でまったく知りませんが、競技や練習に誠実に真摯に向き合い、他の選手やサポートスタッフ、競技関係者、関わるすべての人をリスペクトし、感謝の気持ちを持ちながら競技をされてきたことが伝わってきました。競技生活の区切りをつける最後のレースが多くの方が抗議してくれるような、はた目から見れば納得しがたい結果であっても、「どんな経験も見角や捉え方を変えるだけで新しい世界を知れるチャンスでもあると思っています。」と言える人間性に尊敬の気持ちを抱かずにはられません。「天国と地獄の長い箸」の、「自分の人生の幸不幸は自分の考え方にかかっている」の実践者であると感じ、ご紹介させていただきました。